



新たな一步を踏み出す皆さんへ

新潟県立看護大学学長 渡邊 隆

初夏の今日このごろ、大学は新入生の皆様を迎えて活気づいています。校内に聞こえる皆さんの声、そして笑顔が大学を生々とさせています。目を閉じて、ずっと前の自分の大学時代を思い出してみると、青春の甘くて、苦くて、その複雑な感情がよみがえってきます。時代は、60年安保の時代で、その年の6月東大生榊美智子さんが、国会前のデモで、圧死してしまったのです。この事件は、大きくとりあげられ、大きな世論を巻き起こしました。

あの当時、大学は、どんな日常だったのか、今思うと複雑です。大学は、安保とデモの話で、もちきりでした。学生間に自主的なゼミが開かれており、そこで読まれていたテキストは、エンゲルスの「自然弁証法」など、唯物論的思考に関するものばかりでした。専門分野の勉強も、授業より、自分たちがつくった読書会が中心の毎日でした。その読書会には、上級生も、時には若年の教官も参加しているものもありました。大学の教育の基本を自分たちが企画したゼミ(とくに読書会)によって自発的に学習していたようでした。

仲間たちと、楽しくやりたいのは、昔も今も同じで、私たちのクラスはたった15名でした。この中に「級長」をつくりました。皆さんで選びました。クラス運営には、もう一役が必要ということになって、なんとそれは、コンパ係でした。コンパなんて言葉は、若い皆さんは知らないと思いますが、いわゆる「呑み会」です。うちのクラスが他のクラスと違ったのは、結構いろいろな年齢の者が集まっていたのです。1年浪人をした1浪から2浪の者もいたし、他大学を卒業してきたものもいて、18才から一番上は、22才の者までいました。集まりには、酒一呑みが必要という鉄則がクラスで合意されたのです。

私の専攻の地球科学では、地球の自然現象を観察・分析し学習するため野外調査に度々出ます。大きなものに2年生の時は約2週間、3年生の時は約1ヶ月の調査研究があります。その2年生の時は、四国巡検でした。中央構造線を中心とした調査研究でした。約2週間のこの巡検

に0教授が、しっかりと私たち15名の学生のため、寝泊りしながら、四国を松山→宇和島→高知とバスと電車の旅につきそいました。調査は、早朝から夕方5時近くまでかかります。帰ると直ぐそのデータをまとめて、夕食後8:00ぐらいからその日のディスカッションに入ります。そして次の日の計画をたて、その日の学習は終了します。しかし、そのあといわゆるコンパがはじまり、そこで1日の出来ごとをいろいろと語りあをねざらい、友とわかちあうのです。出てくる話題は様々です。先生の嫁さんの話も、他の教員の方のロマンスや、今学会での話題とか、本当に様々でした。そして就寝。という繰り返しでした。2週間過ぎ巡検も最後に近くなった日、先生から呼ばれました。先生いわく「ちょっとお金かしてくれないか?」。毎日、毎日、コンパ係が一生懸命呑み会をやったので、先生のおさいふに影響が出て、帰りの電車賃がなくなってしまったのです。コンパの会費を集める度、先生は、かなり無理をなさっていたのだと知りました。こうした4ヶ年の後、めでたく卒業し、各界に巣立っていきました。そして卒業後50年と経た今も、クラスは、年1回のペースで続いています。

楽しい学生時代でした。今年入学した方々、そしてすでに在学している学生の皆さんにも、本大学の学生生活を楽しんでいただきたい。よいクラスメイトとの楽しい思い出をいっぱいつくって卒業してほしい。その思い出をもって看護の世界にとびこんでほしい。後から続く次の世代にも、こんなに楽しい世界があるのだということ伝えていってほしい。

今、大学にいる学生の皆さんは、大学の現在です。この現在が、大学の将来を支えるのです。皆様と共に連携して大学の将来を支えましょう。



もくじ

- | | | | |
|------------------|---------------|------------------|-------------|
| 1 新たな一步を踏み出す皆さんへ | 3 学外オリエンテーション | 5 メディカルグリーンツーリズム | 7 紀要の発行について |
| 2 新入生メッセージ | 4 新教職員の自己紹介 | 6 卒業式 学位授与式 | 卒業生は今 |
| 3 歓迎の言葉 | 5 卒業研究発表会 | 大学院学位論文発表会 | 科学研究費採択状況 |
| 領域別実習を終えて | 新入職員 | 修士課程を修了して | 8 入試関連情報 |



1年生

私たち一年生がこの新潟県立看護大学に入学してから約二か月が経ちました。本格的に授業が始まるにつれて勉強に対する不安はもちろんです。自分が理想とする看護師を目指して講義や実習に励もうと思います。

私には訪問看護師として地域に貢献したいという目標があります。大学受験の際、看護師について調べているうちに訪問看護師の仕事に興味をもちました。特に今の日本は高齢化が進んでいるため、在宅ケアが注目されているようです。一人暮らしの高齢者や身体が不自由な人を看護の分野から支えたいと思いました。まだ訪問看護などの専門科目の講義や実習は始まっていないので自分で調べた範囲の知識しかありませんが、これから始まる授業に意欲をもって取り組んでいきたいと思っています。

3年編入

私たち編入生は今年看護師免許を取得し、新たに保健師を志してこの大学に入学しました。授業は、他の学年に混ざって受けることが多いので、各学年の人たちと仲良くなったり、時には刺激になることもたくさんあります。学習に対する姿勢や考え方もとても新鮮に感じることがあります。たくさんの仲間と触れ合うことでお互いにいい部分を吸収していきながら、専門学校での反省点も生かしつつ、またそこで得た教訓をもとに同じ目標を持つ仲間たちとともに研鑽している面では、編入という道を選んでよかったと実感しています。

大学生活という面では、県外や遠方から来ている学生も多いので、自炊をしながら学業との両立をしていかなければなりません。今までお世話になった親元を離れ、身の回りのことはすべて自分でやらなければならないということに最初は不安と戸惑いでいっぱいでした。しかし、同じく一人暮らしをしている仲間と悩みを相談したり、情報を交

また、学校生活については大学生としての自覚をもち、新しくできた友人と共にこれからの日常を楽しみたいと思っています。私は実家から通っているので一人暮らしによる不自由はありません。しかし、家族と一緒に暮らしているということに甘えず、社会に出ていくうえで恥ずかしくない、自立した生活を将来に見据えて過ごしたいです。

これからの学校生活の中には辛いことやくじけそうなことがたくさんあると思います。しかし、同じ志をもって入学した仲間と切磋琢磨し合いながら夢の実現に向けて頑張りたいです。私を支えてくれる家族や友人に感謝の気持ちを忘れず、そして看護師になりたいという自分の初心を忘れず、卒業までの四年間を有意義に過ごしたいと思っています。



換することによってそんな不安もなくなり一人暮らしを楽しめるようになって、これからの経験が数年後自分の財産になるのだと前向きにとらえられるようになりました。

年々難しくなっているとされている保健師国家試験ですが、2年間保健師国家資格取得のための学習に集中して取り組める環境にある私たちは、この大学に来ていることを無駄にしないよう国家試験に向けて、今から日々の勉強を怠ることなくより一層精進していかなければなりません。目標を高く持ち、全員で笑って卒業できるよう有意義な大学生活を送っていききたいと思います。



院生

私は、訪問看護、在宅看護支援センターを経て障害者病棟で勤務しており、ずっと高齢者の方々と関わってきました。仕事を通して、知識の不足を感じることもあり、昨年の本学の公開講座で老年専門看護師の方のお話を聞く機会がありました。そこで、知識をつめばいろいろなことができるのだと知り、老年の専門看護師コースが開設される情報を得て、受験することとしました。入学してみて、大学生活から長く離れていることもあり、学習するという体勢をつくるのが大変で、自分の学力のなさをひしひしと感じています。ですが、同期からいろいろ教えてもらったり、ディスカッションする中で、頑張ろうという気持ちになります。また老年の先生方が丁寧に指導して下さるので、今まで知っていたつもりでも深くは理解していなかったことに気が付き、日々新しい知識の収穫があります。「知る喜び」を得ることは、

日々のやる気につながっていると感じています。研究テーマとして考えているのは、「高齢者の終末期ケア」に関してです。臨床の現場では、高齢者の意思にそぐわない過度の治療を受けて楽ではない様子であったり、入院期間が延長することによってご家族との関係が疎遠になってしまうことが起こっており、それらに対して何かアプローチはできないかと考えています。また、実践においても、本学で学んだ日々の知識を、現場の改革につなげていけたらと考えています。





歓迎の言葉

3年生

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新入生の皆さんはこれから迎えられる大学生活に胸躍らせている一方、不安な気持ちも抱えていることでしょう。みなさんが大学生活を楽しめるよう、在学生として少しながらアドバイスをしたいと思います。

一つ目は、積極的にサークル活動や行事に参加することです。サークル活動や行事に参加することは確実にいい経験になります。また、それらを通じて多くの繋がりを得ることもできます。先輩と仲良くなることで、テストや実習など大学生活での試練を乗り越えるアドバイスももらえるかもしれません。私たち在校生も、サークル活動や行事を通じて皆さんと仲良くなれるのを楽しみにしています。

二つ目は、仲間を大切にすることです。今、皆さんの周りには大学受験という難関を乗り越え、この大学の同じ学年の仲間としてこれからの大学生活をともに歩んでいく仲間です。仲間と共に多くのこ

とを経験し、楽しいことは共有し、辛いことがあったときには支え合い、助け合うことを志して下さい。こうして絆を深めた仲間は大きな心の支えになると私自身学びました。ぜひ、仲間は大切にしてください。

三つ目は、日々目標を持って物事に取り組むことです。これからの四年間で勉強やサークル活動、行事、その他にもとてもたくさんのことを経験することでしょう。一つ一つのことに自分なりに目標を持って取り組むことで、やる気も充実度も向上します。自分なりに目標を設定して物事に取り組めば、大学生活はより密度の高いものになり、後々思い返した時に自分の誇りになると思います。

私はこれまでの大学生活で、一番大切なことは、たくさん勉強してたくさん遊んで、何事にも真剣に、また積極的に取り組むことだと学びました。これからの四年間は皆さんの人生の中でもかけがえない宝物となるはずで、充実した四年間を過ごして下さい。



この記事は削除させていただきました。



学外 オリエン テーション

4月13日・14日黒姫高原「アスティくろひめ」にて、新入生を対象とした学外オリエンテーションを行いました。事前に本学にてスポーツを行い、汗を流したことで、緊張も解け、和やかに楽しく過ごしているようでした。また、在学生とも懇談し、新たな大学生活への意欲と期待を高めている姿がみられました。





地域看護学 准教授 高林 知佳子

はじめまして。4月1日付で地域生活看護学領域・地域看護学の教員として赴任しました。

富山生まれの富山育ちで、この3月まで富山県の保健師として勤務していました。保健所では、母子保健、精神保健、結核・感染症対策、難病対策等の業務、健康増進施設の派遣中は、運動・栄養・休養を通じた健康づくり業務、精神保健福祉センターでは、自立支援医療費の支給認定と精神障害者保健福祉手帳の交付決定に関する業務等を担当していました。今までは現場にいて学生さんを受け入れる立場でしたが、この春から学生の皆さんを社会に送り出す側になりました。地域保健の動向を常に意識し続けながら、ささやかな私のこれまでの経験と学び、そして保健師を選んで良かったと思ってもらえるよう、保健師とは地域に向向いて必要な健康課題を見つけ、対策を考え、地域の様々な関係機関の方々と連携しながら健康づくりに取り組むことができる素晴らしい職業であることをお伝えしていこうと思います。

ところで、1年前の初めて大学を見に行った帰り道、右も左もわからないまま車を走らせていますと、落ち着いた佇まいの公園を発見しました。中に入ってみましたら、見渡す限りの美しい蓮の風景が広がっていました。それは高田公園だったのですが、あの時、心が癒された美しい風景を、今は毎日見ながら通勤できることに幸せを感じています。またどの方も、高田公園の桜の見事さを教えてください。皆さんの温かさや優しさに触れながら、少しずつ環境に溶け込んでいけたらと思っています。そして、人とのつながり、喜びや悲しみを分かち合える心を大事にしながら、私ができることを探し、努力をしていく所存です。皆さんどうぞよろしくお願い致します。



小児看護学 助教 北村 千章

小児看護学の助教としてお世話になっています。北村 千章です。私は、3年前に、長野県の看護専門学校を退職して、40代で、大学の大学院に進学してきました。大学院生としての時間は、長年の自分自身の課題と直面し、苦しいこともたくさんありましたが、自分自身を振り返る良い機会になりました。私をここに導いて下さり、ご指導いただきました本学の諸先生方に、感謝の気持ちを忘れずにいたいと思います。

さて、私の20代は、東京でパブル全盛期に、助産師として仕事と余暇を十分に楽しんだパラダイスタイムでした。30代は、故郷の信州に戻り、結婚をして3人の娘たちに囲まれ賑やか毎日を過ごしました。3人目の娘の自宅出産の体験から「命の重さ」を子どもたちに伝えようと、小・中学生への性教育や、青年期の学生とのピアカウンセリングの活動を続けました。そして、そんな中で、大学院進学をきっかけになった大きなできごとがありました。それは、私が20年にわたり活動してきた、心臓病の子どもを守る会でのボランティア活動の中で出会った重症の心臓病をもつお子さんが、30歳まで生存し、障がいをもちながらも仕事を得て、恋愛をして結婚をして父親になったことでした。その出来事から、障がいがあっても生きていくことで、たくさんの可能性が広がることや、生きていくことの意味を、たくさん考えたのです。このことを形にしたいと思いました。その子が今日まで生きてきたその過程の中で、お母さんはどのような子育てをしたのか、障がいのある子どもの生きる力をどのように伸ばすことができたのか、それが私の修士論文、「重症先天性心疾患をもつ子どもがひとり立ちするまでに育てた母親のライフストーリー」です。

小児看護学を学ぶ学生さんたちと、「子どもの命をどのように守っていけるのか」を、ともに考え語り合える教員でいたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



成人看護学 助教 竹原 則子

はじめまして。4月より成人看護学助教として勤務させていただいております。

私は上越出身で、本学大学院の1期生でもあります。看護学校卒業以来、今年3月までずっと看護師として働き続けてきました。その間、主に急性期病棟や救急を中心に勤務してきました。それから、運動神経は悪いのですが身体を動かすことが大好きです。社会人になってから細々とバレーボールを続けてきました(一向に上達しませんが...)。そのおかげで、バレーボールを通して多くの仲間との出会いがあり、現在もそのご縁を大切にさせてもらっています。学生のみなさんとも機会があれば、一緒に練習させていただきたいと思います。

バレーボールを通して多くの仲間との出会い(ご縁)があったように、看護師として勤務している間にも多くの患者さんとの出会いがありました。数多くいる看護師の中で、受け持たせていただくこと自体がご縁です。特に、以前に受け持った患者さんが違う疾患で入院されて再度受け持ちになったりした時には、「人との出会いはご縁である」ことを痛感します。

そう考えると、今回、こうして母校でもあるこの大学に勤務できたことも、ここで学ぶ多くの学生さんとお出會ったことも、そしてこの大学で勤務されている先生方や職員の方々とお出會ったことも、すべて素晴らしいご縁だと思って感謝しています。

こうした出会いに感謝しながら、私の臨床経験から得たものを少しでも学生のみなさんに伝えていき、看護師として大きく羽ばたいてほしいと願っています。

研究分野に関しては、これまで自ら行ってきた看護ケアや臨床現場を客観的に振り返りながら、「クリティカルケア看護」と「看護師の卒後継続教育」について更に深めていきたいと考えています。

私は、教育者としても研究者としても若葉マークです。諸先生方のご指導を賜りながら、学生のみなさんと一緒に考え、悩み、楽しみ、喜びながら成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



母性看護学 助教 中澤 紀代子

はじめまして、4月に臨床看護学領域 母性看護学の助教として赴任いたしました。私は新潟県内の出身ですが、上越地域には観光で訪れる程度でしたので生活するのは初めてです。高田城の桜や日本百名山・妙高山などの豊かな自然に囲まれ、長い歴史と文化が引き継がれてきた上越の地で仕事ができることに感謝しております。

私は今まで、大学病院の総合周産期センターで助産師として勤務していた期間が長く、MFICU(母体・胎児集中治療室)と呼ばれる、合併症を有する妊産婦さんや早産が予測される妊婦さん(ハイリスク妊産婦)が入院している部署で、母親と児の命と健康を昼夜を問わず見守る一方で、元気な産声をあげ新しい命が誕生することの尊さを日々感じていました。

母性看護学は、次の世代の健全な育成と女性の生涯を通じた健康を支援する看護学分野であり、女性とその家族を含めて看護の対象となります。女性であればもちろんのこと男性にとっても、大切なパートナーができたり将来子どもを授かったりすれば必ず関わってくる学問領域です。ですので、看護学生として学ぶ専門知識としてのみならず、とても身近に感じ、興味をもっていただける領域だと思います。家族で大切なお子さんの誕生を迎え、家族が成長・発達するプロセスをお手伝いする母性看護の臨床現場には、看護者としてのみならず、ひとりの人間としても心を揺さぶられるナラティブ(物語)にあふれています。そのような母性看護の臨床の現場で経験してきた看護実践を意味づけしながら、学生の皆さんと大いに語ることを通して、共に刺激し合い「気づく力」を育てていきたいと考えております。

私自身、大学での教育・研究活動は初めてではあり教職員の皆様からご指導をいただきながら、学生の皆さんと共に成長して行きたいと思っています。どうぞ、よろしくお願い致します。





平成23年12月20日に、平成23年度の卒業研究発表会が行われました。7期生は、日ごろの看護への興味・関心から1つの焦点をあて、約8ヶ月の期間をかけて論文制作を行いました。当日の発表は、緊張しながらも、それぞれの今までの努力と情熱が伝わってくる内容でした。

新入職員 (敬称略)

氏名	早川 隆	秋本 聖子	山田 広明	武田 利之
出身地	上越市	上越市	新潟市	妙高市(旧新井市)
前職	上越地域振興局県税部 糸魚川収税課	上越地域振興局 健康福祉環境部	新潟翠江高等学校	福祉保健部生活衛生課
趣味	ドライブ(助手席側)	子ども服作り	ラーメン食べ歩き	ラーメン食べ歩き
抱負	どんな問題にも必ず一つ以上答えがあると信じ、力を合わせてできることから始めたい。	初めての職場で最初は緊張の毎日でした。これからも新たな気持ちでがんばります。	高校の勤務から、大学勤務になりました。仕事のレベルが高くなりました。向上心を持って職務に励みたいと思います。	WIN-WINを常に考えて職務を遂行していきたいと思っています。

直江津学びの交流館主催 新潟県立看護大学看護研究交流センター企画
『どこでも』できるリハビリ体操
～2つの介護施設見学から現場を学ぶ～
講座参加募集のお知らせ



日時：平成24年11月21日(水) 9:30集合15:00解散予定
概要：元気なあなたがいずれ介護が必要になったとき、少しでも体の機能低下を防ぎ、健康を維持するためにできることがあります。それが「リハビリ」体操です。これは、ご自宅でも施設でも『どこでも』できます。そんなことを大学で学び、その知識を持って2つの介護施設を見学します。現場でのリハビリ体操の実践例を見学させていただきます！

募集人数：15名
募集締切：平成24年8月8日(水)
参加費：835円(昼食代+保険料)



日程	時間	スケジュール
	9:30	直江津学びの交流館(上越市中央一丁目3番18号)集合
	10:10	新潟県立看護大学到着 ：テーマ：どこでもできるリハビリ体操 ：担当：平澤 則子 教授、高林 知佳子 准教授
	11:50	有料老人ホーム スローライフもんぜん到着：施設見学・施設での昼食
	13:50	介護老人福祉施設 和久楽到着：施設見学
	15:00	直江津学びの交流館到着：アンケート回収後解散

応募方法や詳細等は、直江津学びの交流館 (tel: 025-543-2859)へお問い合わせください。
学内担当者：永吉 雅人 助教 (tel: 025-526-3121)



3月16日に学部・大学院の卒業式・学位授与式が行われました。学部を卒業した90名、大学院を修了した2名が卒業証書と学位記を受け取りました。それぞれの学びを得た卒業生・修了生は、自信と喜びに満ちた様子で、新たな旅立ちを迎えていました。



3月14日に大学院学位論文発表会が行われました。学生は、これまでの研究成果を緊張しながらも、堂々と発表していました。また、活発な質疑応答がされ、新たな学びと課題を得ることができたようでした。



発表された論文

- 「高齢の結核患者に対する保健師の支援の特徴」
- 「重症先天性心疾患の子どもを亡くした父親にとっての子どもと過ごした体験」

修士課程を修了して

修了生

私は、保健師として数年の勤務経験を重ねていく中で、担当した事業の成果をまとめて発表する機会が増えていきましたが、そのための知識や力不足を感じることも増え、研究のプロセスをきちんと学びたいと思うようになりました。これが私の大学院進学を考えたきっかけです。

本学ではほとんどの大学院生が仕事を継続しながら大学院に通っています。私の場合も、職場の研修制度と大学院の就業年限を3年とする長期履修制度を活用して、就業しながらの学生生活を送りました。職場との調整や大学院の事前学習等、時間に追われながら気力体力ともに様々な苦労があり、働きながら学習することの難しさを実感する毎日でしたが、実践とリンクさせながら学習できることで学びを深めることができたと感じています。

大学院の授業は学生が主体的に行っていくものであり、自分で関心のあるテーマや課題を見つけ、それを追求し、その成果やプロセスを

伝えるというものであり、ほぼ全ての授業がプレゼンテーションとディスカッションで行なわれます。そのため、授業の前には資料や先行文献を参考に自分の理解を整理し、授業の準備をする必要がありました。このようなプロセスに慣れるまでは非常に苦労しました。また、修士論文作成に当たっては、指導教授等の指導を受けながら、研究に必要なプロセスをひとつひとつクリアし、一つの成果をまとめあげるといった一連の研究プロセスを通して学びを得ていきました。

大学院を修了して数ヶ月、私にとって大学院生としての3年間はとても貴重な充実していたと実感しています。一度保健師として実践を経験してからの大学院で学ぶということは、看護の学びをより深いものにし、また、様々な人との出会いにより豊かで刺激的な時間となりました。これからも向学心、向上心を意識しながら大学院での学びを生かしていきたいと思っています。

電子ジャーナルとしての本学紀要の創刊

紀要委員会委員長 教授 関谷 伸一

本学開学以来10年の歳月が流れました。その間に私たち教員の行った教育、研究活動の内容は、本誌「ポルティコの広場」などの広報誌に紹介されたり、各種の報告書として関係方面にお知らせしたりしてきました。これらとは別に、教員の研究活動の成果報告の場としての紀要が、平成24年3月30日に創刊されました。特筆すべきことは、ピアレビュー(査読)を実施していること、電子ジャーナルとしてすべての論文が本学リポジトリ「こナース」に掲載されていることです。したがってインターネットへの接続環境さえあれば、誰でもどこでもい

つでも論文を閲覧できます。そのためアクセス件数には目を見張るものがあり、創刊以来1か月余りの間に300件以上、論文のダウンロード数も200件を超えています。紀要の学術的水準に関しては多くの議論がありますが、まずは多くの研究者に読んでもらわなくては評価してもらえないわけですので、その点に関してはクリアしたと言えます。第2巻以降、その内容がさらに充実しますよう、皆様のご協力をよろしくお願いします。



3期生

私は新潟市民病院腎臓・リウマチ科、呼吸器内科、血液内科、皮膚科の混合病棟に勤務しています。

内科病棟が主なので患者さんの終末期や退院支援に関わることが多く、患者さんの目標が達成できた時や、患者さんが安らかな最期を終えた時のご家族からの言葉をいただいた時には、この仕事を選んで本当に良かったと自分の選んだ道を再確認できました。

入職したての頃は男性ということもありコミュニケーションがうまく取れるか不安なところもありました。しかしスタッフの皆さんには性差問わず接していただき、男性看護師のなかでも縦と横のつながりが強く、その不安は一気に解消しました。むしろ男性看護師にしかできないこと、有利なことを看護の場で見つけることができ、今後も男性なり、自分なりの有利な点を前面に活動していきたいと思っています。

現在は臨床看護業務以外にも透析用医療器具関連の感染管理に興味を持ち、研究や業務を進めています。感染対策の重要性と原因検索・対策立案・実施・評価の一連の動作を学ぶことができ、新たな知見を広げることができました。一方で透析用医療器具関連の感染率を、計算式を用いながら一定の数値を出すという、情報処理・統計を扱うことで大学での授業の重要性を再認識しています。



リーダー業務やチーム活動など任される分野も出てきて、責任があると同時にやりがいも感じ、1年目・2年目とはまた別の、新たな緊張感を持ちながら看護の臨床に立っている感覚です。

卒業・入職してから5年目となりますが、まだまだ毎日が新しい発見の連続です。今後も知識を広げ、学習していくことが私の自己課題だと捉えています。突き詰めるとどこまでの終わりのない、魅力的な分野に進めることができるとてもよかったと思っています。

大学で授業を受けていたころと生活スタイルが変わる中で、仕事に対する自己実現と家族・プライベートの充実を両立させることで、日々過ごしていくことに達成感を感じています。



平成24年度科学研究費採択課題一覧

1 継続課題

研究代表者	課題(期間)	研究種目
境原 三津夫	触法精神障害者の社会復帰支援システムの構築(2011~2013年度)	基盤研究C
水澤 久恵	看護専門職の「倫理的価値」概念の創出と、それに基づく倫理的評価尺度の開発(2011~2013年度)	基盤研究C
飯吉 令枝	看豪雪地域の介護予防リスクの高い高齢者を早期発見する近隣見守りチェックリストの開発(2011~2013年度)	基盤研究C
高柳 智子	看護師の臨床判断を基盤とした脳卒中患者の移乗時見守り解除のアセスメント指標の開発(2011~2013年度)	基盤研究C
櫻井 信人	自死遺族支援グループを運営・継続するために必要な要素(2011~2013年度)	若手研究B
片平 伸子	小規模多機能型居宅介護における効果的な看護提供(2011~2013年度)	若手研究B
高島 葉子	助産事故を経験した助産契約当事者間の信頼関係形成過程に関する質的研究(2010~2012年度)	基盤研究C
原 等子	認知症の人の口腔機能に関連した苦痛とその緩和に関する研究(2010~2012年度)	基盤研究C
岡村 典子	中堅看護師の就業継続に向け管理者に必要なとされる支援に関する研究(2009~2012年度)	若手研究B

2 新規採択課題

研究代表者	課題(期間)	研究種目
藤田 尚	韓国出土古人骨への自然人類学的総合アプローチ(2012~2014年度)	基盤B・海外
渡辺 弘之	ベトナムにおける社会復帰が困難なハンセン病(元)患者のQOLと生活支援の研究(2012~2014年度)	基盤研究C
平澤 則子	在宅難病患者と家族のソーシャル・キャピタルと生活満足度に関する実証的研究(2012~2016年度)	基盤研究C
粟生田 友子	障害と共に生きる人への包括的生活支援を目指す「障害者看護学」構築のための基礎研究(2012~2014年度)	挑戦的萌芽研究
小林 綾子	降雪地域の特性を生かした2型糖尿病患者の運動療法継続に向けた支援方法の検討(2012~2014年度)	若手研究B
渡邊 千春	終末期がん患者・家族への輸液療法に対する意志決定支援ガイドの開発に関する研究(2012~2013年度)	若手研究B
加賀美 亜矢子	認知症高齢者の排便状況に関連した行動心理状況を予防する施設ケアの検討(2012~2014年度)	若手研究B



1. 平成25年度 入学試験の概要

■ 募集人員

入学定員	推薦入試	社会人入試	一般入試	
			前期日程	後期日程
93名※1	33名※1	若干名	50名※2	10名

※1 入学定員93名及び推薦入試募集人員33名は、文部科学省へ変更承認申請中です。

※2 一般入試前期日程の募集人員50名は、社会人入試の若干名を含む。

■ 試験科目等

個別試験科目	推薦入試	社会人入試	一般入試※	
			前期日程	後期日程
試験会場	新潟県立看護大学			
出願期間	H24.11.1(木)～H24.11.8(木)		H25.1.28(月)～H25.2.6(水)	
試験期日	H24.11.17(土)		H25.2.25(月)	H25.3.12(火)
合格発表	H24.11.28(水)		H25.3.6(水)	H25.3.22(金)

※ 一般入試を出願する方は、平成25年度大学入試センター試験で本学受験に必要な教科・科目(5教科6科目)を受験する必要があります。

詳しくは教務学生課教務係(電話025-526-2811)へお問い合わせください。

2. 平成25年度 編入学試験の概要

募集人員	4名※		
出願資格	次の各号のすべてに該当する者 ①看護系短期大学を卒業した者(平成25年3月卒業見込みの者を含む)、または、学校教育法第132条の規定に基づき看護系専門学校(専修学校専門課程)を卒業した者(平成25年3月卒業見込みの者を含む)。ただし、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する(見込み)者に限る。 ②看護師免許取得者(平成25年取得見込みの者を含む)		
試験科目	看護学、英語、面接	試験会場	新潟県立看護大学
出願期間	H24.7.23(月)～H24.8.1(水)		
試験期日	H24.8.31(金)	合格発表	H24.9.12(水)

※ 募集人員(入学定員)は、文部科学省へ変更承認申請中です。

3. 平成25年度 大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)入学試験の概要

募集人員	15名		
出願資格	次の各号のいずれかに該当する者 ①学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び平成25年3月卒業見込みの者 ②学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成25年3月31日までに修了見込みの者 ③外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び平成25年3月31日までに修了見込みの者 ④専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成25年3月31日までに修了見込みの者 ⑤大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる文部科学大臣が指定した者(昭和28年文部省告示第5号) ⑥本大学院において個別の審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者が満22歳に達した者(※⑥の資格により出願しようとする者は、事前に本大学院の「出願資格審査」を受けることが必要です。)		
事前面談	出願する者は、全員、出願前に入学後の研究等について、教員と面談することが必要です。		
事前面談期間	H24.6.11(月)～H24.7.13(金)		
試験科目	英語、看護専門科目、面接	試験会場	新潟県立看護大学
出願期間	H24.7.23(月)～H24.8.3(金)		
試験期日	H24.8.31(金)	合格発表	H24.9.12(水)

4. オープンキャンパス情報

新潟県立看護大学が「どんな大学か」を知りたい皆さんのために、オープンキャンパスを開催します。

例年、体験講義・演習や学長・在学生との懇談など、多彩なプログラムで実際に見て、聞いて、触れて、体験していただく内容となっています。

受験を間近に控えた高校3年生はもとより、社会人入学をお考えの方、編入希望の方、保護者の方、看護系大学へ将来進学を考えている高校1・2年生も大歓迎です。ぜひご参加ください。

開催期日	第1回:平成24年8月1日(水) 13:00～16:00 第2回:平成24年8月24日(金) 13:00～16:00		
内容	①大学概要説明 ②入試概要説明 ③体験講義・演習 ④学長室訪問・在学生との懇談 ⑤施設見学 ⑥個別相談 等を行う予定です。 ※内容は変更する可能性があります。		
申込方法	大学ホームページをご覧ください。		
問い合わせ先	教務学生課教務係 電話:025-526-2811 E-mail:kyoumu@niigata-cn.ac.jp		

※ 詳細は大学ホームページ(<http://www.niigata-cn.ac.jp/>)をご覧ください。



〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地
Tel 025-526-2811 Fax 025-526-2815
E-mail soumu@niigata-cn.ac.jp



本年度より、7月の発行となりました。新入生も、本学に来て約3か月が過ぎようとしています。少しずつ、緊張も解け、先輩と共に大学生活を謳歌している様子を見ると、本学が地域の様々な方々から暖かく支えられていることを実感します。今年もポルティコを通して、新潟県立看護大学の「今」を少しでも届けられるよう、頑張ります。

入試・広報委員：渡邊 千春